

「インボイス制度」についての考察

札幌市立中央中学校 三年 本田 景子

「当店はインボイス登録店」

コンビニエンスストアなどのお店の入口に表示されています。

令和五年十月一日、消費税の新たな制度として「インボイス制度」が始まりました。

消費税は商品の販売やサービスの提供に対してかかる税金で、消費一般に広く公平に課税されている間接税です。間接税とは、税金を納める義務がある者と税金を負担する者が異なる税のことです。つまり、納税するのは事業者で負担するのは消費者となります。消費者が負担した消費税は、小売業者、卸売業者、完成品製造業者、原材料製造業者へと価格の一部として移転されていきます。このことを税の転嫁といいます。また、消費税には納税が免除される場合があります。一年間の売り上げが一千万円以下の事業者には納税が免除されています。消費者が負担した消費税が税の転嫁の過程の中で納税の免除を受けていることがあります。

事業者が「インボイス制度」に登録すると登録番号が付きます。登録番号を表示した請求書や領収書を発行することで、税の転嫁がわかりやすくなりました。さらに、納税の免除がなくなるので、消費者が負担した消費税は全額納税されます。

「当店はインボイス登録店」の表示は「お客様が負担された消費税を納税していません。」という意味になります。この税の転嫁を例えるなら、リレーのバトンパスだと思えます。第一走者から次々にバトンを託し最終走者がゴールする。心一つにしてゴールすることが納税することです。人と人との繋がりを大切にする日本人にとってもふさわしい制度と言えるでしょう。

次に、消費税の税金の使いみちですが、私たちが安心して生活していくために必要な公共サービスである医療、年金、介護、福祉などの社会保障に使われています。これは、国の歳出の三割以上も占めています。安心した生活を送りたいと誰もが思っています。日本は少子高齢化の社会へと向かっていっています。少子化とは高齢者の生活を支える若い人の数が減っていくことです。一方で、高齢化が進むと医療、年金、介護にかかる費用負担や歳出がますます増加します。広く公平に課税されている消費税は、社会保障を支えている重要な税金と言えるでしょう。

ところで、私たち中学生に関係のある税金の使いみちといえば教育費です。義務教育の九年間で合計すると、一人当たり九百万円以上も使われています。私の中学校には、税金で購入された実験器具やバットやボールなどの体育用品があります。理科の授業でトウモロコシをシャーレで挟み顕微鏡で細胞を観察したり、体育ではソフトボールでヒットを打って得点に繋がったことが楽しかったです。来年三月に私は義務教育を終えて中学校を卒業します。今日まで納税をしてくれた方々に感謝し、卒業の日を迎えたいと思います。